

## 東京都教育委員会「言語能力向上推進校」に指定

今年度から3年間、東京都教育委員会の言語能力向上推進校に指定されました。全都の中学校の中で、本校を含め11校が指定されています。「言語活動の充実」は、平成24年度から実施される新学習指導要領の柱です。本校では、「学習の基礎である言語力の育成と学力向上について」を今年度の校内研修のテーマとしています。

### 第1回校内研修会「いま、なぜ言語能力向上なのか」



5月9日(月)には、東京都の言語能力向上推進事業の担当者である東京都教育庁指導部主任指導主事の儘田文雄先生を講師にお招きし、校内研修会を実施しました。講演会では、1「いま、なぜ言語能力向上なのか」 2「言語能力向上推進事業について」 3「主な言語活動の課題と改善策」 4「これからの時代に求められる授業」についてご講話をいただきました。いずれも、様々な実例を踏まえたすぐに授業に生かすことのできる示唆に富んだ内容でした。今回の講義を生かし、学校全体での言語活動の充実を通じて、生徒の思考力・判断力・表現力等の育成を図っていききたいと思います。

### 第2回校内研修会「子どもたちがどのようにしたら声を出すか」

7月8日(金)遠藤主幹教諭による国語科の研究授業～文語定型詩を味わうという単元で、「初恋」島崎藤村の教材を使って「読むこと」表現の仕方や文章の特徴に注意して読むことの授業を行いました。その後の研究協議会では、稲城市教育委員会指導室長の千葉正法先生を講師にお招きし、「子どもたちがどのようにしたら声を出すか(発言・朗読・音読・あいさつなど)」について、図書館活用の報告や教員各自が工夫していること、実践していることを協議し、指導助言をいただきました



### 社会科におけるディベート授業への取組

山口教諭の社会科の授業でディベートに取り組んでいます。今回は、アメリカとヨーロッパの「暮らし」「農業」「人々」について活発な討論が行われました。テーマから図書館にて資料となるものを見つけ、資料を読み取って解釈し、考えたことについて根拠を示しながら説明することやお互いに意見交換をすることを学んでいきます。



## 各種大会・コンクール等に入賞

中学生の主張東京都大会 会長特別賞 3年1組 川島才路君「東北を襲った大震災」  
税についての作文 多摩市長賞・南多摩納税貯蓄組合連合会優秀賞 3年3組 山岸桃華さん  
全国中学生人権作文コンテスト都作文委員会賞 3年2組 竹中亜美さん「高齢者と家族」  
京王マナー川柳 入選 3年1組 向山慎一君「音を消す 小さなマナーで 幸せに」  
多摩市中中学生俳句大会  
東京多摩ロータリークラブ賞  
3年1組 遠藤恵さん「鬼灯が 恋に落ちれば 朱色なる」  
3年3組 吉村美佐子さん「やきそばが 特別になる 夏祭り」  
東京多摩プロバスクラブ賞  
3年2組 山川綾さん「木蓮が 片手ひろげて 空掴む」

## 被災地の子どもたちへ本を贈る取組

1年生が被災地の子どもたちに向けて、家から一人一冊の本を選び、手紙を添えて送りました。手紙の内容は自己紹介、贈る本の紹介、励ましのエールです。「この本を読んで、少しでもあなたが笑顔になってくれると嬉しいです」「どんなにつらくても本にはたくさんの友達がいるよ。私も本と一緒にあなたの励ましの力になりたいです」「泣けるなら笑えるよ」など生徒たちの心のこもったメッセージと本が被災地の子どもたちに「元気」をあたえることができたらしいと思います。



## 第3回校内研修会「教職員間のコミュニケーションと学校の効果」

夏季休業中の8月29日(月) 京都教育大学教授の榊原禎宏先生を講師にお招きし、「教職員間のコミュニケーションと学校の効果」というテーマでご講演をいただきました。コミュニケーションとは相手にうまく伝えること。相手にどう伝わるか逆算して手段をとることである。学校での多くの業務は、個業的側面が強く代替性が低いことから、コミュニケーションは情報の集約と合わせて、拡散や創発としても注目されることが大切である。「こんな見方もある」「気づかなかった」「これっておもしろくない?」「なるほど」といった声の飛び交う、楽しい学校づくりはいかに可能かについて、具体的な多くのご示唆をいただきました。

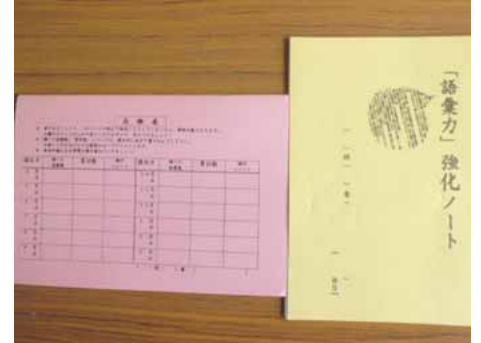
## 10月12日(水)「言語力検定」の実施

今年度初めての取組として、「言語力検定」に挑戦しました。主催 財)文字・活字文化推進機構



## 国語科における「語彙力強化ノート」の取組

牧野教諭の国語科の授業では、「語彙力強化ノート」に取り組ませています。これは、授業中や家庭学習等でわからない言葉があった場合、自主的にそれをノートに書き出し、読み方や意味・用法、品詞名を言葉ごとに図書館などを活用し辞書を使って調べ、蓄積していく取組です。1冊で280語、現在一番進んでいる生徒では9冊目に入っています。1冊増えるごとに色を変え、生徒のやる気を引き出す工夫をしています。



## 「教科カウンセリング週間」の設置

生徒の言語能力向上と自らの学習課題の明確化を図る取組として、「教科カウンセリング週間」を年3回設けました。夏休み始めに行った第1回に引き続き、第2回を10月24日(月)～31日(月)に行いました。「教科カウンセリング」では、生徒の思考力、判断力、表現力等の育成を目指して、学習面でのつまづきや悩みを改善するにはどうしたらいいか。また自信をつけつつある教科については、さらにどのような取組をしたらいいか、読書活動の大切さなどを、生徒と各教科担当の教員で個々に話し合っています。各教科担当がカウンセリングカードを渡し指定した生徒や、自らの希望で参加した生徒を対象に全教科にわたってカウンセリングを行いました。次回の予定は1月16日(月)～20日(金)です。

## 第4回校内研修会「理科の授業と討論と感想文～伝える力の育成」

11月14日(月)中林主任教諭による「心ゆさぶられる教材の提示 予想 討論 実験 感想文を書く 感想文の紹介」という授業サイクルを活用した理科の研究授業を行いました。研究協議会では、講師に明星大学准教授の小原茂巳先生をお招きし、「理科の授業と討論と感想文(討論と感想文を活用した意見の交流)を通じた伝える力の育成」についてご講演をいただきました。



## 「私」の2011年を漢字一字で表わすと...国語科

今年一年間を振り返り、生徒が自分で選んだ漢字一字を毛筆で書き、その理由と解説を発表しました。



## 他国語に学ぶ～英語の学習法～

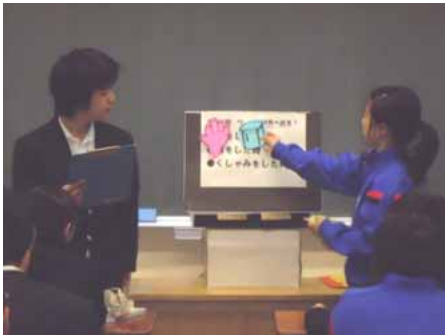
12月20日(火曜日)に、北欧ノルウェーに在住の「安田・モツェック久美子さん」に1年生英語のゲストティーチャーとしてご来校いただきました。安田さんは、22年前中学校三年生の時に川越校長が担任だった時の生徒で、大学卒業後ドイツ人の方と結婚され、ドイツへの大学院留学やお仕事をされ、現在は、ノルウェーの首都オスロにて日本語教室の教師をされています。

当日は、「読書の大切さ」「中学校の英語の学習がいかにか世界でも通用するか」や「リーディングやヒヤリングの学習法」そして、同時通訳で用いられる「シャドーリング」などを体験させていただきました。また、ドイツ語、ノルウェー語と英語、日本語の比較や発音の仕方、さらには海外で生活するという事など示唆に富んだお話をうかがいました。1時間でしたがとても貴重な言語活動の時間になりました。



## 保健委員会による広報活動

保健委員会では、健康の保持増進のために「ケガの予防」「視力」「歯の衛生」等様々な広報活動を工夫し、年間を通じて行っています。この活動は、思考力・判断力・表現力等の育成を図るために本校が推進している言語活動の取組です。今回はその取組の一つとして、紙芝居形式で「インフルエンザ予防」の広報活動を行いました。朝学活時に保健委員の生徒2名が、生徒一人一人の関心を高めるために工夫を凝らした紙芝居を各教室ごとに実施し、生徒の実践につなげられるようにしています。



## 第5回校内研修会「空間図形における言語活動」

1月23日(月)東京都教職員研修センター研修部教育開発課統括指導主事の青木由美子先生を講師にお招きし、川村教諭による数学科「空間図形における言語活動」の研究授業を行いました。KJ法により授業の研究協議を深め、青木統括からは「自己の思考」「伝えあい」「思考のまとめ」という言語活動を各教科のねらいに即して取り入れていくこと。「教えることと考えさせること」を区別すること、そのためにも「ねらい」を明確にすることが重要であるなど、どの教科にも生かせることを学びました。



## 夢を育む教育・言語能力向上推進校講演会

### ～ 思考する、伝える、読み取る力の育成「美しい日本語を話そう」

3月9日(金)には、(株)テレビ朝日編成制作局アナウンス部編成制作局次長の宮嶋泰子様を講師にお招きし、言語能力向上推進校講演会を行いました。宮嶋様は、日本の放送局で数少ない女性スポーツ実況アナウンサーとして活躍し、現在もスポーツ特集の取材・リポーター兼ディレクターとして、シンクロナイズドスイミングやフィギアスケート女子を中心に取材活動を続けています。

当日の講演は、言語能力向上推進校としての1年間のまとめとして「美しい日本語を話そう」をテーマに、一流アスリートとの対話やアナウンサーとしての仕事内容、アナウンサーの教育プログラムも体験させていただきました。「言葉は薬にも、凶器にもなる」これは、アナウンサーとして初めて教えられる言葉だそうです。英語は「強弱」で表現するが、日本語は「高低」で表現をする。言葉の高低、ニュアンスの違いが気持ちの表れとなる。高低の音域を拓けることが豊かな表現力につながることを学びました。フランス人は母国語であるフランス語をととても大切にしており、学校では話し方や発音の仕方の授業があるとのことでした。私たちが母国語である日本語を大切に、日頃から「美しい日本語」を話すことを意識していきたいと思います。今回の講演は「言葉の感性を磨く学校」として、有意義な言語活動の時間となりました。

